

2024年度

茨城キリスト教学園高等学校自己評価表

目指す学校像	本校は、キリスト教教育による豊かな人間性の涵養と教育基本法等の精神を踏まえ、教育目標達成に努力する学校である。		
	本校の教育目標は、「心豊かで、実力のある、自立した国際人の育成」である。		
	1) 自己の確立(人間の尊厳性)	自らを深く見つめ、謙遜に真理を探究し、神の前に真実に生きる人間を育てる。	
	2) 人間関係の育成(隣人愛の育成)	世界に目を向け、他者に向かって開かれた心を養い、隣人を愛する人間を育てる。	
	3) 個性の伸長(自己実現)	自分に与えられている能力を伸ばし、品性を養い、進んで人類の福祉と世界の平和に貢献する人間を育てる。	
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標
本校の3本の柱を中心に生徒・保護者・教職員の共通理解の下で、種々の教育活動を実践し一定の成果を年々積み重ねてきたが、なお一層、一人ひとりの生徒を大事にし、きめ細かな計画・立案・実施・点検が必要である。		1.キリスト教教育による豊かな人間教育	① 礼拝、宗教行事等の活動を通して豊かな人間性と情操の陶冶を図る。 ② 宗教行事に積極的に取り組む姿勢を養うとともに、礼拝を通して敬虔な態度を身につけさせる。 ③ キリスト教教育を中核とする宗教部・生徒指導部・教育相談部など関係分掌の連携による教育体制を築く。 ④ 聖書・礼拝を通して生きる意味や目的を学び、真実に生きる生徒を育成する。
		2.英語教育と国際教育の強化	① 国際教育を積極的に展開し、国際理解を深めるとともに、その基盤でもある英語教育の強化と実践に努める。 ② 英語・国際教育の充実と全校への拡大に努める。(諸留学制度、海外語学研修、海外研修旅行) ③ 世界の一員であることを認識し、自国および他国を愛し、人類の福祉と世界の平和を希求する生徒を育成する。 ④ 米国人教師による英会話教育の充実と強化に努める。
		3.学力の向上と進路指導の充実	① 希望した進路の自己実現ができる生徒を育成する。そのために、希望進路の実現をあらゆる面から支援する体制を確立する。 ② 自己の長所・興味・関心・使命感に気付かせ、個性の伸長をはかる。自ら考え、自主的に調べて学ぶ生徒の育成について研究・推進する。 ③ 読書を奨励し、小論文に早期に取り組ませる。 ④ 21世紀型研究開発的教育の前進に努める。教職員の専門性向上をはかり、思索的創造的人材育成を可能にするノウハウを高める。

判定基準 5:十分適正である 4:適正である 3:概ね適正である 2:やや適正に欠ける 1:適正でない

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
聖書	聖書の中の豊かな人間理解に触れながら、どんな人も神に愛され受け入れられている大切なかけがえのない存在なのだとすることに気づいていくことによって、他者との共存へと導かれていくことを目指す。聖書の学びを通して、現代社会における課題をキリスト教的視点から学ぶことを目指す。これらの学びを通して、グローバルな視点で考える力や、自分自身の生き方と社会のあり方を考える力を培う。	1.聖書を土台に、.キリスト教の基礎知識を学ぶ。	5	4	・聖書が今生きる生徒達に何を伝えようとしているのか、わかりやすく授業で展開できるように今後も検討していく。 ・1単位のため、曜日によって授業時間数が大きくずれるので、改善が必要。 ・教材研究を行い、より充実した内容の授業展開が出来るようにしていく。 ・ICTや視聴覚教材を目的に応じてより効果的な使い方を検討していく。
		2.福音書に示されているイエスの生き方や教えの今日的な意義について、具体例を用いて理解を深める。	5		
		3福音書に示されているイエスの生き様や教えを現代の社会の中で読み解きながら、人間をめぐる根本的な問題について考える力を養う。	4		
		4.視聴覚教材やICTを有効に活用した授業づくりを図る。	4		
		5.グループワーク、調べ学習や発表を行い、グローバルな視点で考える力や自分の考えを言語化する力を養う。	4		
国語	国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成し、伝え合う力を高めると共に、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語を尊重する態度を育てる。	1.小テストなどを通して、語句の意味・用法を理解し、語彙力を豊かにさせる。	5	4	文章を味わうことと、受験で戦える力を養うこととの両立を授業時間の中で完結させることが年々厳しと感じる。ICTや教科との連携を図ることでこの難題を解決していくことが必要であると感じる。
		2.図書館と連携して読書に親しませ、進んで表現する態度を育てる。	4		
		3.古典文法・古文単語・漢文句法を定着させ、古典を読解し鑑賞する能力を養う。	5		
		4.指導内容・方法・進度などについて、担当者間の打ち合わせを密にする。	4		
		5古典芸能に親しみ、さまざまな表現活動を通して日本文化の継承者としての意識やプライドを育てる。	4		
		6.ICT(電子黒板・タブレット)やAL型授業を効果的に取り入れ、主体性や協働性を養う。	4		
地歴公民	国際化の進展する現代社会において、国内外を問わずより良き社会の形成者に必要な資質・能力を養う。また、進路実現のために必要な学力やキャリア意識を育てる。	1.地理や歴史に関わる事象、現代の諸課題について、概念(一般的な規則性や傾向等)を活用して考察する力を養い、事実暗記の偏重に陥らないようにする。	4	4	新学習指導要領に移行後、最初の大学入学共通テストが実施された。このような中で出題内容の質的变化など、教育改革の余波を最も大きく受ける教科が「地歴公民」である。大きな変化に戸惑いはあったものの、地歴公民科の各教員が多様な出題形式に対応できる知識研鑽と、それに基づいた上でICTや他のメディアを活用した教科指導法を編み出すことで、本校生徒の進路実現を力強く後押しできるよう教科力の基盤整備を一層図っていきたい。
		2.調査や諸資料、新聞・ニュース等を活用し、様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けさせる。	4		
		3.協働学習の手法を適宜導入しながら、社会の課題解決に向けた考察や構想をさせ、それを説明したり、議論する力を育てる。	4		
		4.Society 5.0 の時代に対応できる人材育成のため、ICT活用を進めた授業づくりを図る。	4		
		5.宿題の提示・回収や確認テスト、校外模試の対策を実施し、復習を中心とした家庭学習の態度を定着させる。	4		
		6.中・高の接続を意識した連携を深め、教員間の情報共有や学習内容の体系化、多様な社会科教育の機会の提供等を進める。	4		
数学	数学における基本的な概念や定理・公式の理解を深め、問題を適切に処理する能力を高める。	1.予習の励行を徹底し、1年次の早い段階から家庭学習の習慣をつけさせる。	4	4	学力低下が著しいため、従来の指導では理解させることが難しく、何らかの方策を考える必要がある。
		2.教師間の連携を密にし、進度・内容について確認しあう。	5		
		3.基礎力の定着確認のため、小テストや節末・章末テストを実施し定着度を確認し、不十分な点は補充演習などを行う。	4		
		4.問題演習が校外模試につながるよう、計画性を高めて実施する。	4		
理科	(1)観察・実験などを通して自然を探究する能力と態度を育成する。 (2)自然の事物・現象についての基本的な科学概念の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	1.目標を明確にし、解りやすい授業を心がける。	5	4	実験や観察の回数を増やすなど、生徒の学力を問わず授業に関心を持たせる仕組みを作りたい。また入試に向けて問題演習を行い知識の定着を図ってきたい。
		2.日常の科学的現象を授業の中にできるだけ取り入れ、理科に関心を持たせる。	5		
		3.観察や実験を通して、自然現象をみる目を養い、問題解決のための科学的方法や手順を会得させる。	4		
		4.希望進路を実現するために、小テストや演習をできるだけ多く取り入れ基礎力を定着させる。	4		
		5.教科会の中に科目ごとの打ち合わせ会を設け、相互研修・連絡の場とする。	4		
保健体育	心と体の健康を目指し、自主的に健康管理ができる能力を身につける。また各種目ごとに適切な技術を習得する。	1.身体的、精神的健康維持をするために必要なことを認識し活動する。	5	4	限られた施設やクラス人数に応じた実技種目選定を引き続き考える。
		2.個人や集団の中で各種スポーツの技術向上を図る。	4		
		3.さまざまな活動を通して、基礎体力の向上を図り、体力テストで県平均を上回れるよう生徒が積極的に参加できる授業にする。	4		
芸術	(美術)豊かな感受性を養い、絵画の技法を習得して基礎的な能力を身につける。 (音楽)讃美歌を中心とした諸外国の音楽を学ぶことによって、音楽を愛する心情を育むと共に、豊かな感性を育てる。	1.対象物のモチーフに対して、深く観察を繰り返して、基本となるデッサン力を身につけて学習する。	4	4	個別指導のやり方を工夫したり、ロイロノートを活用したりすることで、授業の中の活動の時間をなるべく削らずに個別指導を行うことで教科の力を高めることができた。
		2.創る喜び、見る喜びを通して対象物に迫り、生徒の絵画の認識を深める。	4		
		3.個別指導を通して、生徒に適切なアドバイスをし、新たな発見をして感性を磨く。	5		
		4.歌唱指導 歌唱の時間を増やし、引き続き安全対策に配慮しながら歌唱活動を充実させる。	4		
		5.器楽指導 トーンチャイムでは協働の精神を持ち、自分の役割を果たし演奏を完成させる。ヴァイオリンでは楽器の仕組みを知り、運指を覚え、一人ずつクラスで発表できるように指導する。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
英語	英語4技能習得への意識を高めながら、コミュニケーション能力の基礎の育成と、進路実現のための英語力を育成する。	1.1年次は、英単語、英文法の定着を図ると共に、英語で表現された内容を理解できることを目指す。	4	4	・学習習慣の確立(辞書の使い方・予習の仕方を身につける)。 ・四技能をまんべんなく身につける。
		2.2年次は、英語プレゼンテーション等の指導を通して、自分の意見を英語で表現できることを目指す。	4		
		3.3年次は、演習等を積極的に行い、様々な進路実現のための英語力(CEFR:A2～B1)を身につけることを目指す。	4		
家庭	衣食住、消費生活、家族・家庭、福祉などに関する基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を解決し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	1.実験・実習を通して、衣食住に関する基礎的な技術を習得させる。	4	4	・日常生活に関連させて考える題材の設定を工夫する。 ・実習は、取り組み可能な内容を検討し、実施できるようにする。
		2.学習ノート、プリント、基礎縫いキットを提出させる。	4		
		3.個人の家庭生活における問題点を知り、自立のための課題を考えさせる。	4		
		4.日常生活から、環境や社会全体の問題への理解を深める。	4		
情報	情報デザイン、情報分析の方法、プログラム、ネットワーク、データベースなどについて理解し、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力や情報モラルを身に付けさせる。	1.基本的なアプリケーションを用いた実習や、Webページ製作実習等を通じて、情報デザイン・分析等に必要な技能を身に付けさせる。	4	4	・「情報」の共通テスト対策を3年次に行えるようにしたい。 ・プログラミングの実習にかける時間を増やしたい、
		2.プログラミングやデータ分析の実習等を通じて、情報と情報技術を適切・効果的に活用する力と知識を身につけさせる。	4		
		3.情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を身に付けさせる。	4		
宗教	年間テーマの「命を尊ぶ」を指針とした活動を通して、互いに認め合い、他者のために心を働かせ、行動し、他者と共に喜び生きていくことができることを目指す。	1.礼拝の充実		5	・賛美礼拝のZoom配信による音の大きさが教室によって不安定になる問題について、今後も改善に向けて検討していく。 ・今年度は、テーマに関連する、ルワンダで活動している佐々木さんのパネル展をやったことはとても良かった。今後継続していけるようにする。 ・キリスト教への理解については、まだ課題が大きい。今回は、講師を招いて講演会したことはとても良かったので、今後も啓もう活動に力を入れていく。 ・礼拝で歌う讃美歌について検討していく。
		・1日の始まりに、生徒たちが静まって自分を見つめる時間を大切にする。	4		
		・中高教職員の他、学園チャプレン、近隣牧師、大学職員の方など、様々な方からみ言葉を聞く機会を持つ。	5		
		・月に1度、賛美礼拝を行う。	5		
		・英語の讃美歌、新しい讃美歌を学ぶ機会や讃美歌練習を行い、讃美歌を通して神を賛美するという大切なことを学ぶ。	4		
		・英語礼拝の時、話す内容の英文を事前に配信し、より理解しやすくする。	5		
		・昨年度に引き続き、生徒による奨励を行う。	5	4	
		2.キリスト教への理解を深めるための啓蒙活動			
		・キリスト教週間中、年間テーマに関連するパネル展を行う。	5		
		・クリスマスの意味を学ぶ機会をつくる。	4		
・学年礼拝時に、讃美歌練習の時間を取り入れる。	4				
教務	(1)学校における教育活動全般を統括し、円滑な運営ができるようにする。 (2)教務関係の業務を効率化・省力化できるようにする。 (3)日々の教育活動が円滑に行われるように調整する。	1.学校行事が円滑に進められるように各学年、各分掌との調整を図る。	4	4	・授業の振替が徹底されていない。 ・修学旅行中の授業変更など、大人数が関係する場合の振替の検討。 ・全教職員への共通認識の徹底。 ・定期試験、模試の監督者の確保。
		2.教務に関する内容(情報)の全職員への共通認識の徹底を図る。	4		
		3.情報システム部と連携して、出席管理、成績処理、帳簿への記入などの電子化を進め、教務関連業務の効率化を図る。	4		
		4.年度計画の上に月々の計画を立て、日々の教育活動が円滑にスムーズに行なわれるようにする。	4		
		5.日々の教育活動(時間割等)の調整をスムーズに行い、授業時間を確保する。	4		
		6.新学習指導要領に基づく観点別評価と5段階評価の整合性について検討を続ける。	4		
進路指導	(1)学力の向上と進路実現。 (2)ホームルームにおける進路教育の充実。 (3)新しい入試に対応できる情報や資料の充実と活用。 (4)生徒・保護者に対する進路意識の高揚。 (5)中学校に進路情報を提供し、中高一貫生の6年間を見通したキャリア教育の計画づくりに協力する。	1.進路の年間活動計画の内容と意義を生徒に周知させ、学習指導部と連携して学習習慣の確立・学力向上を図る。	4	4	4年制大学への進学を意識する生徒が多数を占めることもあり、学習習慣の早期定着を図るとともに、大学情報・受験情報への接触機会を今まで以上に増やしていきたい。今年度は一部教材等(スタディーサポート、共通テスト自己採点など)をデジタル化した、その機能をLHR等でも活用できるよう、進路計画に組み入れていきたい。また、担任や授業担当者が、大学情報や受験内容に基づく進路指導・教科指導をより展開できるよう、適切な情報提供(他校事例の紹介を含む)を強化したい。そして、学習指導部や探究委員会などとの連携を深め、3年間を見通した進路計画の構築・運用を目指したい。
		2.授業に加えて、校外実力試験・講習等を十分に活用し、入試に対応できる実力をつけさせる。	4		
		3.進路資料・あどばいすを作成・配付し、HR等での進路への意識づけに活用する。また、スタディーサポート等の進路適性検査をキャリア教育につなげ、将来について考える機会を増やす。	4		
		4.ベネッセのHigh School Onlineを活用し、Fine SystemやCompass等で個人・学級・学年の成績・学習状況等を把握する。	5		
		5.論理的思考力・表現力等を養成し、3年間を見通した小論文指導を模索する。また、小論文ハンドブックを図書部と連携して作成する。	4		
		6.教員に対して、ベネッセ・河合塾その他の業者・学校による進路情報を提供し、的確に生徒の進路相談にこたえられるよう協力する。	4		
		7.職業ガイダンス・模擬授業ガイダンス・進路別ガイダンス(卒業生による合格体験談)等を開催する。	4		
		8.3年を中心に、共通テストを始めとする各種進路・入試制度、志望理由書・小論文等について校内説明会を実施する。	4		
		9.生徒にClassi・冊子等で情報を提供し、大学等のオープンキャンパス・説明会(現地・オンライン)への参加、HPの閲覧を勧める。	4		
		10.依頼に応じて本校中学生・保護者への進路説明会等に参加し、6年間を見通した進路設計のため適切な情報提供に努める。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
国際教育	(1)各留学プログラムに参加するよう生徒たちに働きかけ、参加者に対しては適切で有意義な事前指導と事後指導の徹底に努める。また、コロナ禍で始めたオンラインによる国際交流や、国内にいながらも国際理解を深められるようなプログラムについても、継続、あるいは新規開拓を進めていきたい。更に、「探究」活動との接点を模索し、上記のプログラム参加の付加価値を高める。 (2)国際交流委員会はもちろんのこと、全校生徒が異なる文化と触れ合い刺激を得る機会を広げるため、長期短期を問わず、積極的に留学生を受け入れたり、国際理解講演会などの諸行事をその実施意義や方法を熟慮検討の上、計画・実施する。 (3)在学中の長期留学への関心を高め、また実際に行く生徒へのサポートを行う。また、卒業後に海外大学への進学を目指している生徒に十分な情報を提供し、出願書類作成などを援助する。 (4)本校における国際交流の新しい形や新しいプログラムに関する検討については恒常的に努め、視察なども行ったうえで、可能なものから実施していく。	1. 国際交流に関するホームページの内容を更新やその他の媒体を使った広報活動を充実させ、留学(長期・短期)の積極的な派遣、オンラインの国際交流プログラムへの参加につなげたり、外部に対する本校の国際教育活動の理解につなげたりする。	5	5	① 3月の米国短期留学にかわってカナダの学校との新たな交流を予定通り実現したい。②国際交流委員会の活動内容がかなり充実してきたが、次年度はさらなるブラッシュアップをしていきたい。③国際理解講演会は、ワークショップ型にしたいという考えが以前からあり、今年度は探究の授業とのコラボで、実験的に2名の外国の肩を呼ぶことができた。次年度はもっと多くの外国の方を一度に呼んで、国際理解講演会の新しい形にしていきたい。④多文化共生社会の到来に備えた施策の中でも、外国にルーツのある子どもたちの受け入れという具体的な方法がこの学園ならではの形でできるので、他の追従を許さないスピード感を持って実施にこぎつけた。これについては、高校や中学の生徒のピアサポーターの育成というのが次の課題になるので、大学と連携しながら実践していきたい。⑤JICAのプログラムや探究の授業とのかかわりから、新しい国際教育の取り組みも実現していきたい。⑥ようやくインスタグラムなどの媒体を通じた広報に着手し始めたので、これをさらに活発化させたい。
		2. 受入れプログラムについては、国際交流委員会や英語部などの特定の生徒たちだけでなく、それ以外の生徒たちにとっても多くの交流の機会をも受け、異文化コミュニケーションの貴重な経験を積ませるきっかけとする。	5		
		3. 長期留学や海外大学への進学に関する情報周知に努める。	4		
		4.長期短期を問わず、ホームステイの引受け家庭やクラス、クラス担任との事前打ち合わせ・準備および継続的なサポートを徹底し充実させる。特に後期留学については、キリスト大学の日本語支援をより充実させる。	5		
		5. 国際交流委員を積極的に参加させた国際理解講演会の実施を通じて本校生に広く国際理解を深める機会を設ける。	5		
		6. キリスト大学の留学生やインターン生と積極的に交流し、またそこに本校の中学生も交えることで(中)高大連携の活性化を図る。	4		
		7. 既存の国際交流の形以外の形式(新たなフィールドの開拓)についても、恒常的に議論を重ね、新しいプログラムの可能性について検討から実施に結び付ける。	5		
		8. 派遣プログラムについては、共通の日本文化理解のためのテキストなどを使用しながらの事前指導、及びプレゼンテーションなどによる事後学習を充実させ、プログラムにかかわることで得られる学びの内容を、視野を広げることなどに留まらず、「探究」活動をはじめとする学びの深化につなげる。	5		
学習指導	特進クラス・SGクラス、特進SAクラス、特進Aクラスそれぞれの進路実現のための働き掛けをし、日々の学習で学力を蓄積させ進路の実現に向けて歩ませる。 → 学校全体の進学実績向上	1.生徒のデータを追跡・点検・蓄積していく。	4	4	・学年段階を追って、より体系的な学習指導をめざす。・進路指導部との連携を一層強め、難関大学へのチャレンジ意識を組織的に醸成する。
		2.進路達成のために、自ら進んで学習室利用ができるよう奨励する。	4		
		3.Classi等を活用し、学習習慣の確立・学習時間の増進を図る。	4		
		4.シラバスの有効活用について、各教科など関係部署と連携し、その活用法を研究・実践していく。	4		
		5.図書館部と連携し、より高度な知見を要する難関国公私大入試に対応できる社会的・時事的知見を早期に獲得させる。	4		
		6.各教科の到達状況や試験結果についての検討・点検を行う。	4		
生徒指導	(1)一人ひとりの自主性自律性を育て、高校生活の充実と人格の育成に努める。 (2)本校教育理念の実現にむけて払われる全教職員の取り組みに協力し、その効果的達成のため側面から援助する。	1.挨拶・正しい言葉遣い・時間厳守など、礼儀と基本的な生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。	4	4	・自主・自律を目指し、生徒自らが校則を遵守し、より良い学校生活を営める環境づくりに努める心を養う。
		2.学年・学級担任などと連携することにより、生徒の問題行動に対し事前・事後に渡って効果的に対処する。	4		
		3.生徒心得に基づいた高校生らしい端正な容姿を守らせる。	3		
		4.携帯電話・スマートフォンのフィルタリングサービス利用を徹底し、インターネットを使用した事故・事件に対する防止および解決に努める。	4		
		5.盗難防止に努める。	4		
		6.いじめに対する対応策を確立し、防止および解決に努める。	4		
		7.中高一貫の生徒指導体制を整える。	4		
		8.学校をとりまく地域社会や多くの人々と協力して活動する。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
特活指導	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方・生き方についての自覚を深め、自己を生かす努力を養う。	1.生徒会主催の諸行事の充実。	5	5	予算の適正配分の再検討、2025年度の特活部の県北地区当番校の準備など
		2.本校にふさわしい生徒会・委員会・クラブ活動の検討と充実。	5		
		3.ホームルーム活動への支援、協力	4		
		4.予算の適正な運用を行う(部費等)	4		
保健美化	(1)心身共に健康な生徒を育成する。 (2)校舎内外の環境美化及び整備の推進を図る。	1.手洗い等の衛生習慣を身に付け、自分の健康を管理できる生徒の育成を図る。	4	4	インフルエンザ、コロナ等の感染症対策の徹底 手指の消毒や教室内の消毒の徹底 消毒液やハンドソープ補充の徹底
		2.授業時間と休み時間とのけじめをつけた保健室利用を徹底する。	4		
		3.生徒自ら美化に努め、毎日の清掃活動を通して環境整備を行う。	4		
図書館	(1)生徒や教職員が足繁く訪れる、魅力ある図書館 (2)利用しやすい学習・情報センター (3)各教科・分掌との連携による充実した図書館活動	1.蔵書構成の適正化を図り、生徒の学習・読書活動に資する蔵書の充実に努める。	5	5	・図書館利用教育の推進 ・学習指導部、進路指導部と連携した大学入試小論文面接指導の強化 ・図書委員会活動の一部再開 ・電子図書館の復活再検討
		2.諸行事・諸展示企画の充実に努め、生徒の読書に対する興味と意欲を喚起する。	5		
		3.図書館からの諸案内により図書館情報の普及に努め、図書館への関心を高める。	5		
		4.ブックリストの活用等により教科・分掌と協力して図書館利用を促す。	4		
		5.図書委員会活動の活性化を通して生徒の図書館利用を推進する。	4		
渉外	(1)PTA会員の意識の向上を図る。 (2)PTA活動の具体的実践に取り組む。 (3)役員・理事との連絡を密にとり、円滑な運営を心がける。 (4)学校経営・学級経営を円滑にするために、教職員のPTA活動に対する理解を深める。 (5)保護者の個人情報の管理の強化。	1.本部PTA、支部PTA、学年PTA(専門委員会)の役割分担を明確にし、それぞれの活動を充実させる。	5	5	・大学見学会、全体研修会の参加者増 ・生徒指導委員会の活動内容検討
		2.学園祭で模擬店を出店する。(支部PTA)	5		
		3.PTA会報「シオンの丘」を編集・発行(年間2回)し、本校の教育活動やPTA活動を魅力的に広報する。また、広報活動を通じて、PTA活動の充実を図る。(広報委員会)	5		
		4.大学見学会を年間2回実施する。(県外大学と茨城キリスト教大学を見学)(大学見学委員会)	4		
		5.講演会や音楽会などの全体研修会の企画・立案を行う。6月の開催に向けてチラシ製作や広報活動に積極的に取り組み、多数の来場者を迎える研修会を目指す。(全体研修委員会)	5		
		6.生徒の健全育成のため、地域のお祭りの巡回、列車添乗指導、さわやかマナーアップキャンペーンに参加し、地域の生活環境の浄化に努力する。また、挨拶運動を推進する。(生徒指導委員会)	4		
情報システム	(1)HPの充実。 (2)授業でのIT活用の推進。	1.HPでの学校行事等の更新の迅速化。	5	4	・HPの内容のさらに充実させる。 ・ICTを活用した授業例を他の教員と共有する機会を持つ。 ・ICTにより業務の効率化を図る。
		2.HP上で提供する情報の拡充。	4		
		3.ICTを活用した授業のサポート	4		
		4.情報教室のPC、生徒iPadの適切な管理。	5		
入試広報	本校の教育内容を受験生とその保護者、中学校や塾関係者に正確に伝わる広報活動を行い、男女問わず多数の志願者を得て、入学者が増えるように努める。	1.PR効果のある学校案内パンフレット・ポスターを作成し、活動域内のすべての受験生に届けられるよう努力する。	5	4	特色教育や環境、通学の利便性など本校の魅力を幅広い地域の中学生・保護者に確実に伝える。次年度もこれまで同様に中学生・保護者に寄り添いながら分かりやすい広報に努めるとともに、中学校や塾の先生方に対しても適切な時期に情報提供をおこなう。
		2.校外で行われる入試説明会や進学フェアに参加する。	5		
		3.学校見学会・入試問題説明会や学園祭での進学相談コーナーの内容を充実させ、多くの受験生とその保護者に参加してもらえるようにする。	4		
		4.SNSで本校の魅力を発信する。	5		
		5.生徒募集に関わることにについて、教職員全員が共通認識を持てるように学内広報に努める。	4		

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度の課題
第1学年	『自らの進路を自らの力で切り拓く』	1. 学習目標		4	・学園祭、修学旅行、研修旅行などのイベントの前までに、進路指導をしっかり行い、年度の前半のうちにあの手この手ですべてのコースの生徒を受験生に変える。 ・探究で、十分に時間をかけて、しっかりとした課題探究を行わせる。 ・コンスタントに家庭学習をする習慣をつける真の学力(大学入試にある程度耐え得る学力)を身につける。 ・ipadの使い方が自由になり過ぎないように指導を徹底する。 ・生活面においては、1年生では大きな問題はなかった。2年生でもこの状態を維持していけるように学年全体で指導していきたい。
		①学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組む。	4		
		②探究活動、部活動、ボランティア活動、国際交流活動への継続的、積極的な参加。	4		
		③社会問題に関心を持ち、失敗を恐れずに何事にもチャレンジする精神力の強さを身につける。	4		
		2. 生活目標			
		①基本的生活習慣を確立する。	4		
		③ルールとマナーを守る。	4		
		③規則正しい生活を身につけ、受験時にも対応できる忍耐力を身につける。	4		
		3. 社会的目標			
		①正しく自己理解するすることで相手への思いやりの気持ち、感謝の気持ちを持ち、正しい人間関係を構築する。	4		
		②進路指導を活用し自らの得意不得意を理解し、自らの将来を真剣に考えさせる。	4		
第2学年	「自立と自律」	1. 学習目標「主体的に学ぶ」		4	・進路実現に向けて必要な学力と意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・受験指導に対する学校、教員側のサポート体制を充実させる。
		①自己の将来、進路目標の考察とその実現に向けて主体的に学習する。	4		
		②探究活動、部活動、ボランティア活動への継続的、積極的な参加。	4		
		2. 生活目標「基本的生活習慣の確立」			
		①挨拶や礼儀を大切にし、ルールの順守とその理解。	4		
		②規則正しい生活を心がけ、心身ともに健康に過ごす。	4		
		3. 社会的目標			
		①自己理解を通して他者も理解し、思いやりを持って接する。	5		
		②コミュニケーションの取り方を考え、相手を尊重する。	5		
第3学年	急激な変化の中で対応できる力を身に付ける。	1. 学習目標		4	
		①好きなことを学ぶ。(授業や部活動)	4		
		②必要なことを学ぶ。(授業や部活動)	3		
		③学びを継続する。(授業や部活動)	4		
		2. 生活目標			
		①想像力をもって行動する。(学級活動)	4		
		③ルールとマナーを守る。(生徒心得)	4		
		③時間と締め切りを守る。(出願、書類提出、授業提出物)	4		
		3. 進路目標			
		①自らの進路について幅広く検討する。	4		
		②進路実現に向け、努力する。	4		